

## 【巻頭言】

日本の言語、文学、宗教、思想、歴史などの文化総体の意義を研究し、発信していくために、二〇〇〇年四月の設立以来、日本学研究所は、毎年一回の国際シンポジウムと公開講演会、三回程度の研究会を活動の柱としてきました。

本号は、二〇一四年度国際シンポジウム「日本と東アジアの〈仏伝文学〉と天竺世界」の開催概要と各講演・発表の要旨、研究例会「〈異域〉をめぐる文学―異域から日本を考える―」について特集しました。

昨年度から研究所の体制の見直しが行われていますが、その中でシンポジウム、研究例会にも工夫を凝らし、多彩な切り口からの「日本学」研究を展開していく所存です。併せて本誌に関してもよりよい誌面づくりをめざしてまいります。

一層のご支援をお願いいたします。

二〇一五年八月

立教大学日本学研究所 所長  
深津行徳